



作成日：2017年12月15日

化学物質等安全性データシート (SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

1.1 化学物質等の名称

製品名： アーデント水和剤

1.2 会社情報

会社名： CBC 株式会社
住 所： 東京都中央区月島 2-15-13
電話番号： 03-3536-4674
緊急時の連絡先： 03-3536-4753
Fax 番号： 03-3536-4743
メールアドレス： d-ogawa@cbc.co.jp

1.3 推奨用途 農薬 (殺虫剤)

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS 分類結果

物理化学的危険性	分類できない
健康に対する有害性	
皮膚腐食性・刺激性	区分 3
眼刺激性	区分 2B
環境に対する有害性	
水生環境急性有害性	区分 1
水生環境慢性有害性	区分 1

2.2 GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル：



注意喚起語： 警告
危険有害性情報： 軽度の皮膚刺激性、軽度の眼刺激性
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

[安全対策]： 取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に飲食/喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。

[応急措置]： 暴露した時または気分が悪い時：医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師の手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
口をすすぐこと。漏出物を回収すること。

[廃棄]： 内容物/容器を関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。



2.3 重要危険有害性

皮膚刺激、眼刺激、水生生物に非常に強い毒性、長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

3. 組成及び成分情報

3.1 単一物質・混合物の区別

混合物

3.2 一般名または化学名

一般名: アクリナトリン

化学名: (S)- α -シアノ-3-フェノキシベンジル (Z)-(1R,3S)-2,2-ジメチル-3-[2-(2,2,2-トリフルオロ-1-トリフルオロメチルエトキシカボニル)ビニル]シクロプロパンカルボキシレート(IUPAC)

一般名: 結晶性シリカ

化学名: 二酸化ケイ素

3.3 成分情報

化学名または一般名	化学式	CAS 番号	官報公示整理番号		濃度または濃度範囲
			化審法	安衛法	
アクリナトリン	C ₂₆ H ₂₁ F ₆ NO ₅	101007-06-1	-	4-(7)-1674	2.7~3.3%
結晶質シリカ	SiO ₂	7631-86-9	(1)-548	-	≥0.1%

3.4 GHS 分類に寄与する危険有害成分

アクリナトリン、結晶性シリカ

4. 応急措置

4.1 暴露経路による応急措置

吸入した場合:	被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移すこと。 症状が続く場合には、医師の手当を受けること。
皮膚に付着した場合:	汚染した衣服および靴を脱ぎ、乾いた布またはタルク粉で拭き取った後、水と石けんで十分に洗浄すること。洗浄後に異常がある場合には、医師の手当を受けること。
眼に入った場合:	直ちに多量の水で洗浄すること。初期洗浄した後、コンタクトレンズを着用している場合は外してから 15 分間洗浄を続けること。洗浄後に異常がある場合には、医師の手当を受けること。
飲み込んだ場合:	口を漱ぐこと。口内を水で洗浄し、コップ 1~2 杯の水をゆっくり飲ませた後、医師の手当てを受けること。医師の指示を受けずに無理に吐かせないこと。意識混濁・昏睡状態、痙攣などの場合は口から何も与えないこと。

4.2 応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて自給式呼吸維持装置付きマスク、適切な眼・皮膚の保護具を着用する。



5. 火災時の措置

5.1 消火剤

粉末消火剤、泡消火剤、水噴霧、二酸化炭素を使用する。

5.2 使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

5.3 特有の危険有害性

火災時に揮発性、毒性、刺激性及び引火性の物質が発生する。

フッ化水素、窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素等が発生する可能性がある。

5.4 特有の消火方法

消火活動は風上から行う。

火災場所の周辺への関係者以外の立ち入りを規制する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

煙を吸入しないように注意する。

5.5 消火を行う者の保護

消火作業の際は、自給式呼吸維持装置、適切な眼・皮膚の保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出物への接触を避け、漏出場所への関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具「8.暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

6.2 環境に対する注意事項

周辺環境に影響を及ぼす恐れがあるため、排水溝や河川等の水系への流出を避ける。

6.3 回収、中和、封じ込め、および浄化の方法

漏出物は可能な限りドラム缶などに回収し、回収した漏出物は「13. 廃棄上の注意」に従って処理する。ドラム缶などには内容物を明記したラベルを貼付する。

漏出場所の清掃は器具を用いて行い、洗剤と水で洗浄し、洗浄液はベントナイトあるいはその他の吸着粘土に吸着させてから回収する。

6.4 二次災害の防止策

取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。

すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

排水溝、下水溝等への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い

技術的対策： 「8.暴露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱い注意事項： 取扱い後はよく手を洗うこと。
本製品を取り扱う時に飲食又は喫煙しないこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。



7.2 保管

技術的対策：	保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。
保管条件：	容器を密閉して換気の良い冷所で保管する。
容器包装材料：	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

8.1 管理濃度・作業環境評価基準

設定されていない

8.2 保護具

呼吸器の保護具：	粉塵による暴露を防ぐため、フィルター付マスクを着用する。
手の保護具：	不浸透性の保護手袋を着用する。
眼の保護具：	粉塵による暴露を防ぐため、ゴーグルまたは顔面用の保護具を着用する。
皮膚及び身体の保護具：	作業用の長袖上衣、長ズボン、帽子を着用すること。

8.3 設備対策

粉塵が発生する場合は換気装置を使用する。

8.4 衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。
汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。
作業終了後は必ずシャワーを浴びること。

9. 物理的及び化学的性質

外観	類白色粉末
臭気	なし
比重	0.34g/cm ³
pH	3.0～5.0 (1%水溶液)

10. 安定性及び反応性

10.1 安定性

通常 of 取扱い条件下では安定である。

11. 有害性情報

11.1 製品の有害性情報

急性経口毒性：LD₅₀ >5000 mg/kg (ラット、マウス)
急性経皮毒性：LD₅₀ >2000 mg/kg (ラット)
眼刺激性：軽度～中程度の刺激性、洗眼により軽減 (ウサギ)
皮膚刺激性：軽度の刺激性 (ウサギ)
皮膚感作性：なし (モルモット)



11.2 成分の有害性情報

成分名; アクリナトリン

急性経口毒性: LD₅₀ >5000mg/kg (ラット、マウス)

急性経皮毒性: LD₅₀ >2000mg/kg (ラット)

急性吸入毒性: LC₅₀ 1.2mg/kg (ラット)

眼刺激性: 軽度の刺激性 (ウサギ)

皮膚刺激性: 刺激性なし (ウサギ)

皮膚感作性: 陰性 (モルモット)

発がん性: なし (ラット、マウス)

繁殖毒性: なし (ラット)

催奇形性: なし (ラット、ウサギ)

変異原性: なし

12. 環境影響情報

12.1 製品の有害性情報

生態毒性:	藻類	72h ErC ₅₀ 0.70mg/L
	甲殻類 (オオミジンコ)	48h EC ₅₀ = 1.6mg/L
	魚類 (コイ)	96h LC ₅₀ = 3.5mg

12.2 成分の有害性情報

成分名; アクリナトリン

生態毒性:	藻類	72h ErC ₅₀ >35µg/L
	甲殻類 (オオミジンコ)	48h EC ₅₀ = 22ng/L
	魚類 (コイ)	96h LC ₅₀ = 0.026mg/L
	魚類 (ニジマス)	96h LC ₅₀ = 1.73mg/L

蓄積性: 魚体中における BCF_{ss} は 479~538

分解性: 土壌中での分解半減期は 6~13 日

移動性: 水溶解度が低いため、土壌中の移動性は低く、地下水等の水系への影響は低いと考えられる。

13. 廃棄上の注意

13.1 残余廃棄物

廃棄においては関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

13.2 汚染容器および包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。



14. 輸送上の注意

14.1 国際規制

国連番号: 3077
品名: 環境有害物質 (固体)
国連分類: 9
容器等級: III
海洋汚染物質: 該当する

14.2 国内規制

陸上規制情報: 道路法 (車両の通行の制限)
航空規制情報: 該当せず
海上規制情報: 該当せず

14.3 緊急時応急措置指針 (容器イエローカード)

番号 171

14.4 特別の安全対策

輸送に際しては直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

農薬取締法:	登録番号 18953 号
化学物質審査規制法:	該当せず
化学物質排出把握管理促進法:	該当せず
労働安全衛生法:	表示対象物質(0.1%以上); 結晶性シリカ (政令番号 312)
毒物劇物取締法:	該当せず
消防法:	該当せず
道路法:	車両の通行の制限なし

16. その他の情報

参考文献: 化学物質総合情報提供システム (CHRIP) GHS 分類結果
(<http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html>)
アクリナトリン農薬抄録

【注意】本 MSDS は、JIS Z 7250:2005、JIS Z 7251:2006、JISZ7252:2009 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 MSDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。